昭和工業株式会社

環境活動レポート

2016年度

活動期間

自：　2016年04月01日

至：　2017年03月31日

作成日　2017年07月03日

目　　次

1.組織の概要　・・・　2

2.対象の範囲（認証・登録範囲）　・・・　3

3.環境方針　・・・　4

4.環境目標 及び 実績　・・・　5

5.環境活動計画の取組結果とその評価　・・・　7

6.次年度の取組内容　・・・　9

7.環境関連法規等の遵守状況　・・・　11

8.代表者による全体評価と見直しの結果　・・・　12

9.取組事例紹介　・・・　13

10.環境関連データ　・・・　15

1. 組 織 の 概 要

(1) 事業者名・及び代表社名

昭和工業株式会社
代表取締役 野口 雅数

(2) 所在地

埼玉県草加市住吉 2丁目1番6号

(3) 環境管理責任者氏名・連絡先

代表取締役 野口 雅数
TEL 048-922-3394　FAX 048-929-1488

（環境管理担当者）
総務部総務課　杉山 孝之
TEL 048-922-3331　FAX 048-922-0946

(4) 事業内容

産業用各種繊維基材への高分子加工、設計、開発、販売
・研磨基布コーティング樹脂加工
・タイヤ基布特殊樹脂加工
・音響機器基布コーティング樹脂加工
・その他産業用資材樹脂加工

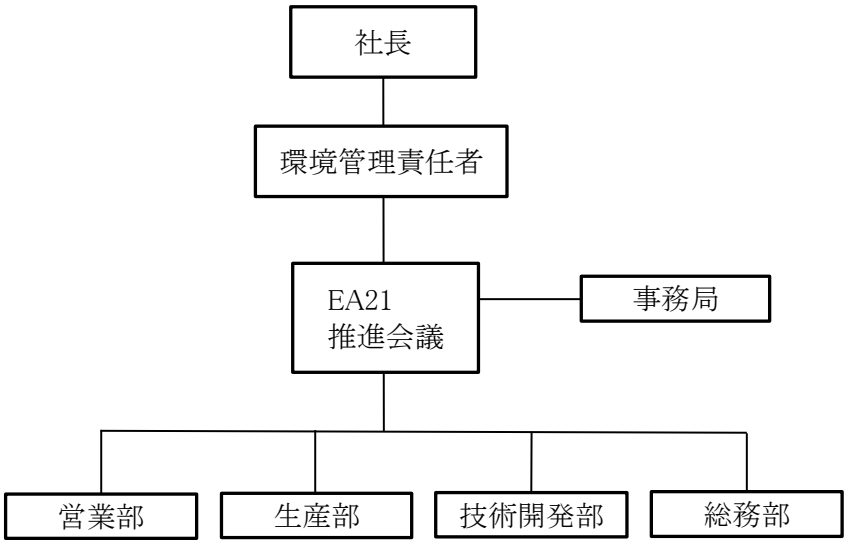
(5) 事業の規模

・資本金	2,000万円
・設立	昭和9年（1934年）11月03日
・年間加工数量	778万m（2016年04月01日～2017年03月31日）
・従業員数	37名 （2016年03月31日現在）
・敷地面積	8,605㎡
・作業場面積	6,065㎡

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

○ 全社・全事業活動が対象

○ エコアクション21（以下“EA21”）推進組織図



○ 役割・担当

担　当	役　　割
社長	代表者として、環境経営全般に関しての責任と権限を持つ。
	環境方針を策定する。
	EA21の遂行に必要な資源（人、物、資金）を用意する。
	EA21の取組状況を評価し、見直し、必要な指示を行う。
	環境管理責任者、推進会議メンバー等を任命する。
	環境活動レポートの承認。
環境管理責任者 （社長兼務）	EA21のガイドラインに沿った、環境マネジメントシステムを構築し、実施し、監視する。
	環境マネジメントシステムの実施状況を、適宜、社長へ報告をする。
EA21推進会議 （管理職）	上半期、下半期に開催し、実施状況の確認及び対応を検討する。
	各担当部門の環境教育を行う。
	各担当部門の環境活動計画の実行。
	環境活動レポートの作成。
EA21事務局 （環境管理担当者）	環境マネジメントシステムの運営全般。
	環境関連の全体的な把握のためのデータの取り纏めを行う。
	社外からの環境に対する苦情等の受付と対応を行う。
	環境関連法規についての遵守把握と対応を行う。
社員	環境方針の理解と認識。
	決定事項の遵守と、積極的な環境保全活動への参加。

3. 環 境 方 針

（企業理念）

昭和工業は、技術開発と品質向上に日一努め、お客様の求める「より良い製品」「優れた技術」そして「誠意あるサービス」を提供することを企業理念としております。また、企業の社会的責任を果たし皆様の信頼を得て、より健全な企業の発展を目指してまいります。

昭和工業は製造業としての事業活動のあらゆる面において環境に優しい活動を推進いたします。

（環境基本方針）

当社は産業用基布のコーティング製品の開発・製造・販売に於いて、環境保全が重要な課題であることを認識し、製造環境の改善、環境負荷の逓減に努め、環境マネジメントシステム（エコアクション21）に基づいて環境保全活動に取り組みます。

1. 当社は環境関係法規制を認識し、同意した其の他要求事項を遵守します。
2. 環境マネジメントシステムおよび環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善向上につとめます。
3. 当社は重点項目として次のことを、事業活動をとおして環境負荷の逓減に努めます。
   （1） 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の排出量を削減します。
   （2） 省資源を推進し廃棄物の排出量を削減します。
   （3） 水資源の有効利用のため、排水の削減に努めます。
   （4） 化学物質を適正に管理し可能な限り削減に努めます。
   （5） 事務用品等のグリーン購入を推進します。
   （6） 不良品の削減および不良品発生率の逓減をします。
4. 社員研修を進め、社員の環境保全への意識の向上に努めます。

2014年09月01日制定
2016年05月27日確認

代表取締役社長
野口 雅数

4. 環境目標 及び 実績

○ 中長期計画

項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
		目標	99.0%	98.5%	98.0%
二酸化炭素	kg-CO2	2,346,087	2,196,730	2,143,252	2,195,047
電力※2	kWh	*1,341,098*	1,270,722	1,255,649	1,265,619
	kWh/km※	*154.0*	152.7	160.0	166.1
	kg-CO2/km※	*80.9*	67.9	74.6	82.2
ガス	Nm3	767,110	704,410	711,470	716,240
	Nm3/km※	90.0	84.8	90.7	94.0
	kg-CO2/km※	197.1	181.0	198.5	205.9
		目標	99.5%	99.0%	98.5%
一般廃棄物	kg	10,020	9,470	8,000	7,880
	kg/km※	1.176	1.138	1.019	1.034
産業廃棄物（廃プラ）	kg	118,630	112,250	107,490	109,370
	kg/km※	13.918	13.509	13.696	14.356
		目標	95.0%	94.0%	93.0%
工業用水量	m³	189,036	188,080	162,149	164,224
上水量	m³	646	619	661	623

※　電力、ガス、廃棄物については、生産数量1000m当たりの数値を指標とする。
※2 電力の目標値は、2014年上期実績による。電気容量の大きい脱臭装置を稼働させた為。

○ 今期計画・実績

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
電力の削減	電力量	kWh/km※	154.0	150.9	166.1	×
	CO2量	kg-CO2/km※	80.9	79.2	82.2	×

目標値：基準年度の 98.0%

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
ガスの削減	ガス量	Nm3/km※	90.00	88.20	94.02	×
	CO2量	kg-CO2/km※	197.10	193.15	205.89	×

目標値：基準年度の 98.0%

廃棄物の削減

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
一般廃棄物	排出量	kg/km※	1.176	1.158	1.034	○
産業廃棄物	排出量	kg/km※	13.918	13.709	14.356	×

目標値：基準年度の 98.5%

水使用量の削減

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
工業用水	受水量	m³	203,814	189,547	164,224	○
上水道	受水量	m³	793	737	623	○

目標値：基準年度の 93.0%

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
グリーン購入	購入比率	%	43.6%	45.0%	30.6%	×

※ 電力、ガス、廃棄物については、生産数量1000m当たりの数値を指標とする。

5. 環境活動計画の取組結果とその評価

項　　目	評価	内　　容
〇 電力の削減		
不必要時の照明消灯の徹底	〇	巡回確認
倉庫・トイレ等使用時のみの点灯の徹底	〇	巡回確認
室内温度の徹底管理	〇	巡回確認
照明機器の清掃 及び 古い機器のLED化	〇	巡回確認
（総合評価）		
目標は達成できなかった。ラインの稼働時間のばらつきが大きいため、なかなか全体の電力使用量が減らない。負荷の大きいモーターのエコ化や電化製品のエコ化、数の減少が必要。		
〇 ガスの削減		
ガス機器点火からスタートまでの時間の適正化	〇	アイドリングタイムの削減
ボイラー使用時間の適正化	〇	点火消火時間を記録し確認
（総合評価）		
ボイラーの使用時間を短縮したいがラインにより稼動時間がまちまちなため、うまくいかない。老朽化した燃焼装置の効率化も少しづつ進めたい。		
〇 一般廃棄物		
ダンボール分別の推進	〇	今期880kg分別し再資源化
簡易包装のものを優先的に購入	－	該当なし
コピー機リセットの推奨	〇	点検、周知をした
（総合評価）		
段ボールの分別はほぼ定着している。また、業務用ビニールや発泡スチロール類などの分別を進めた結果、一般廃棄物の総量の減少には効果があった。反面、産業廃棄物量が増えてしまっている。		
〇産業廃棄物		
耳カット幅の削減	〇	製品の耳カット幅を狭くした
包装資材の削減	－	該当なし
（総合評価）		
一般ごみからの分別の変更や加工異常による廃棄物の増加がみられた他、特に研磨の加工で小ロット化が進んでいるため、加工数量に比してゴミの分量が増えている。今後、しばらくは小ロット化が進むと想定されるので、来期は数値の把握に努め、目標の再設定が必要と思われる。		

凡例　〇　・・・ 目標達成
▲　・・・ 課題が残ってる
×　・・・ 実施できなかった

項　　目	評価	内　　容
〇水の削減		
工業用水受水量の削減	〇	バルブを絞り削減
現場の洗浄水の削減	〇	ホース先端にコックを装着する
節水の呼びかけ	〇	掲示
（総合評価）		
今期は、地下水使用停止して工業用水の軟水ろ過装置導入した。現場では、まだまだ節水に対して意識してくれない作業者がいます。来年度下期には、下水道料金値上げがあるので、社員一丸となってムダをなくしていきたいです。		
〇化学物質の適正管理		
SafetyDataSheet（SDS）の最新版の取り寄せ	▲	今期の新着はなし
保管場所の周知、徹底、適正保管	〇	保管場所の適正確認、表示のチェック
薬品のSDSの掲示	▲	使用場所の近くにSDSを掲示する
SDSの作成（当社製品）	▲	当社製品のSDSを順次作成
アセトン・メタノールの代替品検討	▲	掃除に使用している溶剤の代替品検討
（総合評価）		
作業現場への薬品SDSの掲示、アセトン・メタノールの代替品検討は進まず。薬品使用時の保護具使用については安全衛生委員会にて安全パトロールで監視している。来期は少しずつでも進めていきたい。		
〇グリーン購入		
グリーン購入の推進	▲	目標未達
（総合評価）		
購入金額のばらつきが大きく、また、購入品目も多岐にわたるため、その月々でのグリーン購入品の比率が大きく変化しているのが分かった。最終的には前期の比率を5%ほど上回ったが、要因が特定できないので、更に実態の把握に努める。		
〇製品のサービス		
巻ロールの清掃、管理	〇	巻ロールのガムテープを除去
メンテナンスの推進	〇	メンテナンスの強化
包装資材の簡易化	－	今期該当なし
（総合評価）		
巻き始めのテープ留め張り方を工夫した結果良い傾向です。まだまだ、現場担当者と、話し合い場を設けて何が出来るかを考えていきます。		

6.次年度の取組内容

次年度の取組は、今年度の内容を基本的に踏襲し、実施する。

項　　目	内　　容
・ 電力の削減	
不必要時の照明消灯の徹底	週1回程度巡回しチェックする
倉庫・トイレ等使用時のみの点灯の徹底	〃
室内温度の徹底管理	使用状況をチェック、監視
照明機器の清掃 及び 古い機器のLED化	電気の日（月1回）に清掃
コンプレッサー効率化	サブタンクを設置することで電力を削減
脱臭装置の見直し	脱臭装置の設置場所、ダクトの見直し
・ ガスの削減	
ガス機器点火からスタートまでの時間の適正化	アイドリングタイムの削減
ボイラー使用時間の適正化	点火消火時間を記録し確認
ボイラー全般の効率化	設置場所、配管の見直し
・ 一般廃棄物	
ダンボール分別の推進	引き続き分別廃棄の推進
簡易包装のものを優先的に購入	購買品は簡易包装のものを優先
コピー機リセットの推奨	コピーミスの削減
・産業廃棄物	
耳カット幅の削減	製品の耳カット幅を狭くする
包装資材の削減	原反の包装をリユースする
廃棄率の削減	加工異常を減らし、廃棄率を下げる
・水の削減	
工業用水受水量の削減	バルブを絞り削減
現場の洗浄水の削減	ホース先端にコックを装着
節水の呼びかけ	掲示で啓蒙
・化学物質の適正管理	
SDSによりPRTR法該当の確認	最新版の入手
保管場所の周知、徹底、適正保管	保管場所の適正確認、表示のチェック
薬品SDSの刑事	作業する場所に使用する薬品のSDSを掲示
SDSの作成	当社の製品のSDSを作成していく
アセトン・メタノールの代替品検討	掃除に使用している溶剤の代替品の検討

項　　目	内　　容
・グリーン購入	
グリーン購入の推進	購入比率25%が目標

・製品のサービス	
巻ロールの清掃、管理	巻ロールのガムテープを除去
メンテナンスの推進	メンテナンスの強化
包装資材の簡易化	客先に打診

7.環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規について違反はありません。また、過去 3 年間、関係機関等からの指導 及び訴訟等はありませんでした。

・当社に適用される主な環境関連法規

法規名等	評価	対象
廃棄物処理法	○	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理廃棄物
騒音規制法	○	コンプレッサー
振動規制法	○	コンプレッサー
悪臭防止法	○	煙突排気
下水道法、市下水道条例	○	下水道
グリーンリサイクル法	○	事務用品の購買
資源有効利用促進法	○	廃パソコン
フロン排出抑制法	○	業務用エアコン等
PRTR法	○	フェノール、ホルムアルデヒド
毒劇物取締法	○	アンモニア
PCB特別措置法	○	高濃度含有機器、低濃度含有機器を処分した

8.代表者による全体評価と見直しの結果

1.環境基本方針

2年目の本年も環境保全が重要な課題であると認識し、製造環境の改善、環境負荷の低減に努めてまいりました。
環境会議を開催し、意識付けを行ってまいりましたが、不十分な項目があり、全体として十分な結果にならなかったと考えております。
エネルギーや資源の効率を上げることができず、課題を残すものになったことは残念ではあるが、それを糧として地道に改善を行っていきたいと考える。

2.環境目標及び実績
・目標
電力、ガス、産業廃棄物、グリーン調達で達成できなかった。
設備手当てなどで改善が可能と考える。

・環境活動計画
毎月の環境会議などで課題を共有し、考える時間を持っている。
全体的な認識は高まっていると感じるが、具体的な行動が示せていないと考える。
小さなことの積み上げでも重要であることの認識を持てるよう、管理者から担当者に引き続き啓蒙していきたい。
次期に関しては、その前提で改善を目指していきたいと考える。

9.取組事例紹介

○ PCB含有機器の搬出

当社に保管されていた5台のPCB含有機器を、専門の処理工場へ搬出し低濃度のPCB含有機器を8/30に、高濃度のPCB含有機器を1/19にそれぞれ搬出。適切に廃棄処理を完了した。

○ 防音対策の推進

網状のフェンスだったところを、ブロック塀に建て替えて、遮音性を上げた。

屋根の補修をおこない、音漏れを軽減した。

○ 煙突の再塗装

外装に劣化の見られた煙突を、耐久性向上させるため、また美観を良くするために、塗装の塗り直しを実施した。

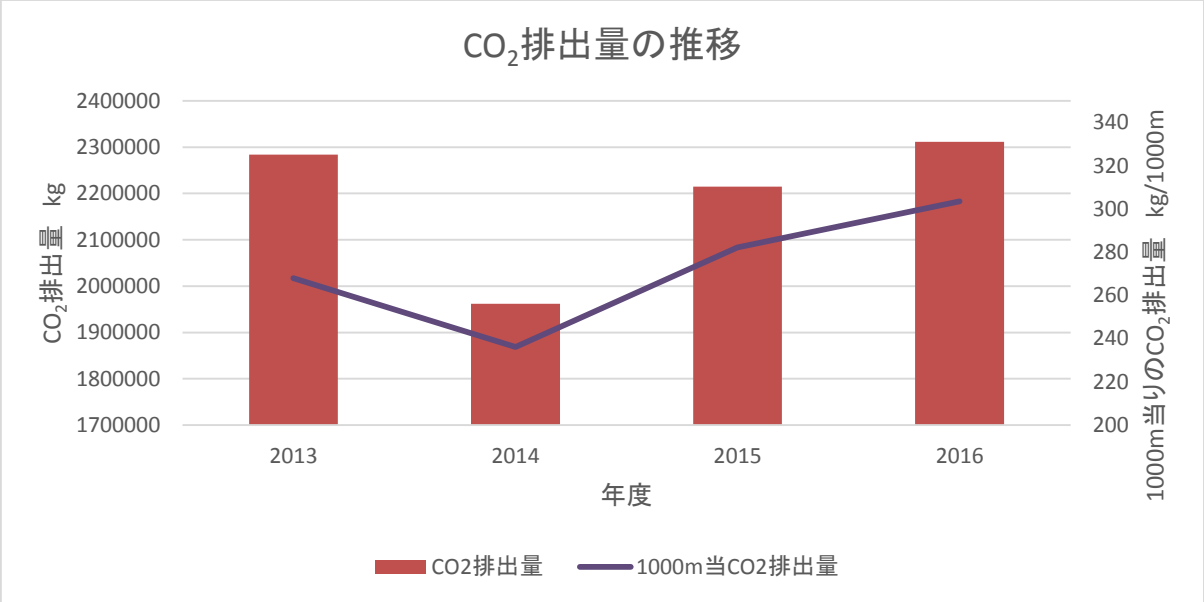
○ パソコンリサイクル

倉庫に保管していたパソコン、プリンター類をリサイクル工場へ搬出

10.環境関係データ

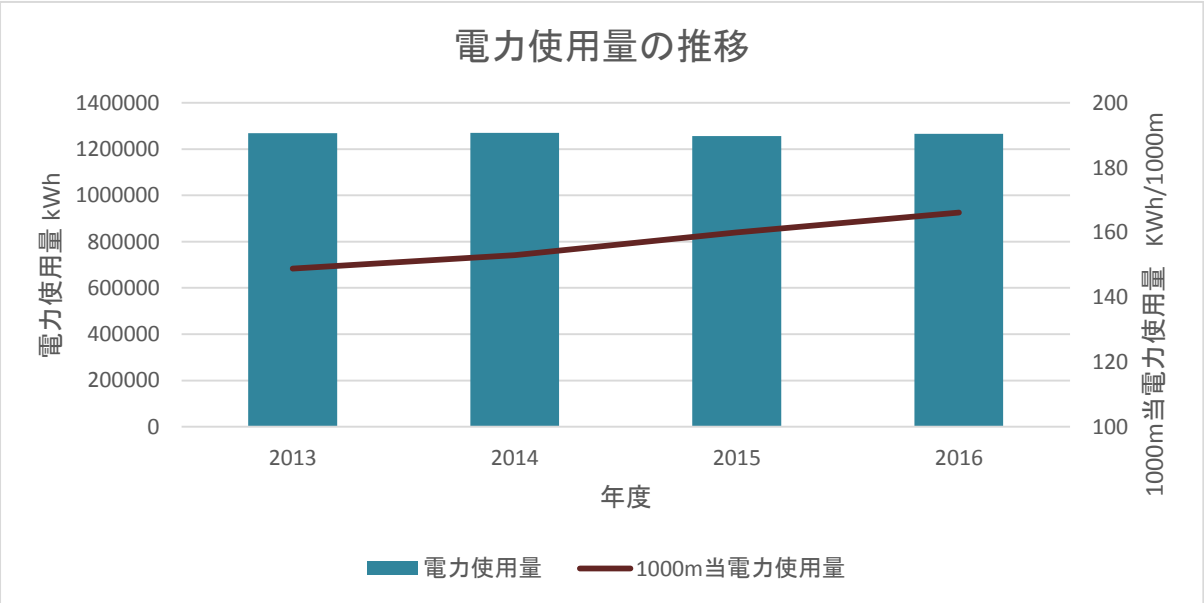
○ CO_2排出量の推移

年度	2013	2014	2015	2016	
CO_2排出量	2,349,087	2,196,730	2,143,252	2,195,047	(kg)
1000m当CO_2排出量	275.6	263.9	273.1	288.1	(kg/1000m)



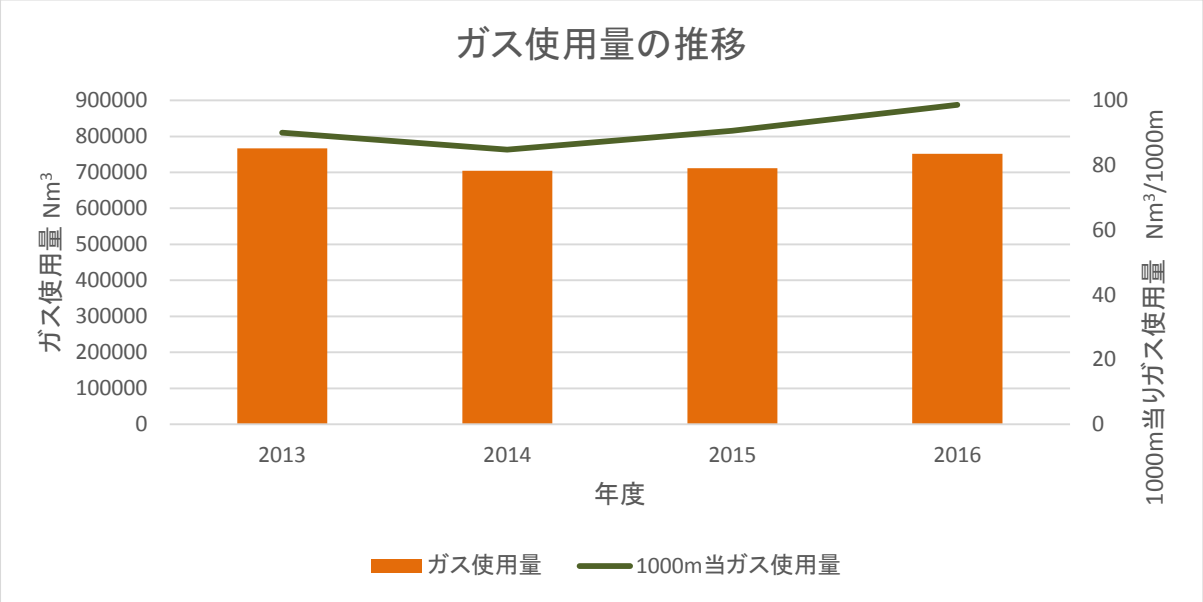
○ 電力使用量

年度	2013	2014	2015	2016	
電力使用量	1,268,792	1,270,722	1,255,649	1,265,619	(kWh)
1000m当電力使用量	148.9	152.7	160.0	166.1	(kWh/1000m)



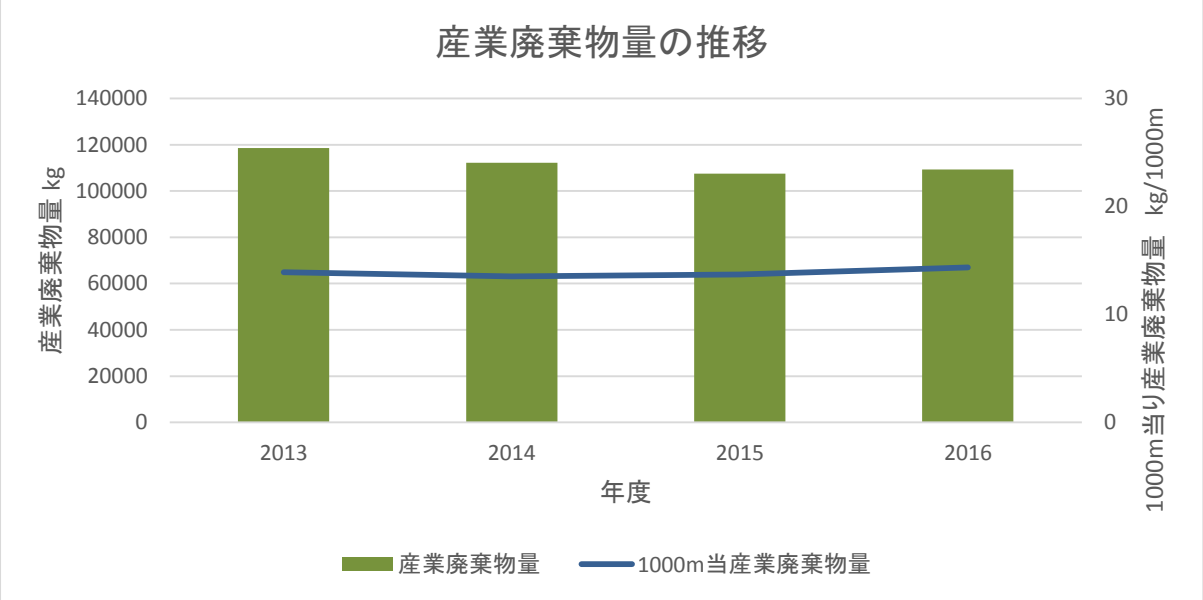
○ ガス使用量

年度	2013	2014	2015	2016	
ガス使用量	767,110	704,410	711,470	716,240	(Nm^3)
1000m当ガス使用量	90.0	84.6	90.7	94.0	(Nm^3/1000m)



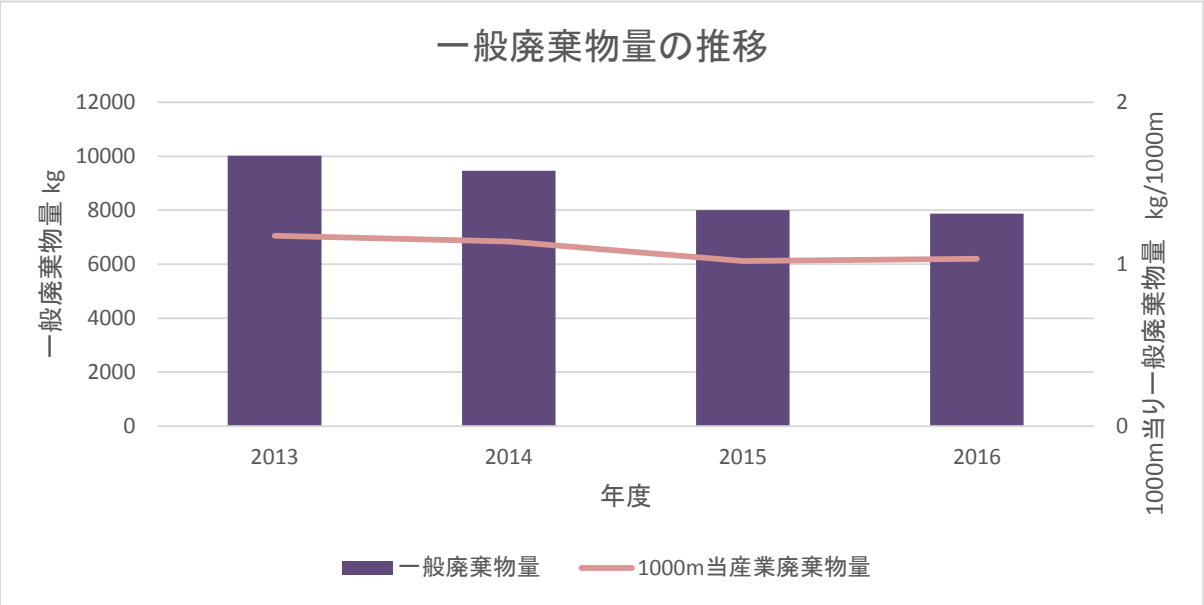
○ 産業廃棄物（廃プラ）量

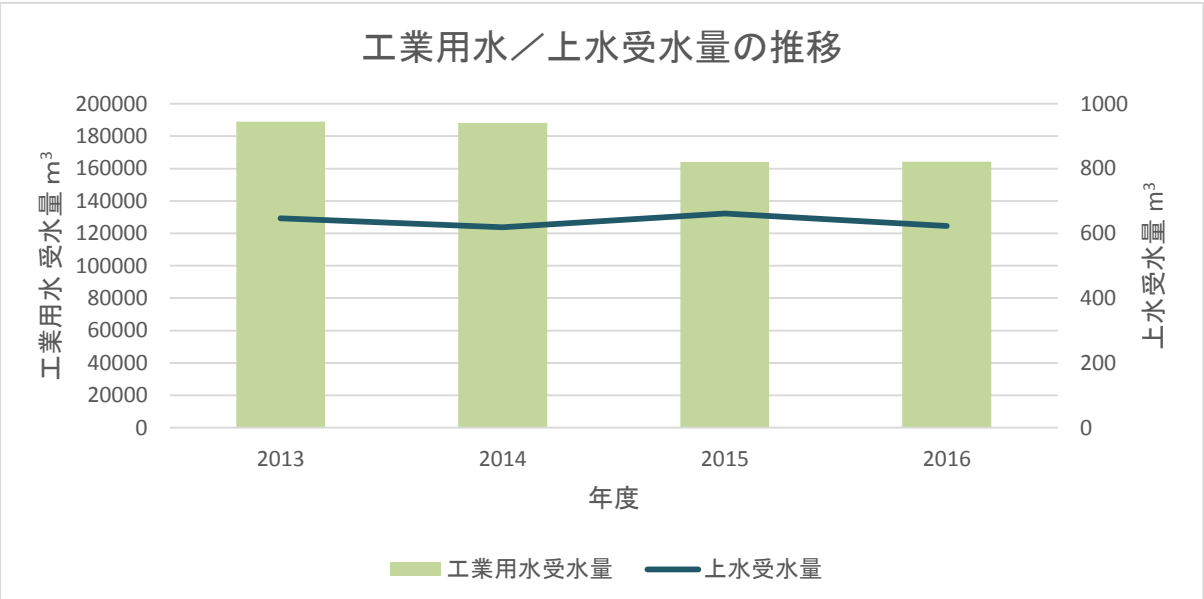
年度	2013	2014	2015	2016	
産業廃棄物量	118,630	112,250	107,490	109,370	(kg)
1000m当産業廃棄物量	13.918	13.485	13.696	14.356	(kg/1000m)



○ 一般廃棄物量

年度	2013	2014	2015	2016	
一般廃棄物量	10,020	9,470	8,000	7,880	(kg)
1000m当産業廃棄物量	1.176	1.138	1.019	1.034	(kg/1000m)



○ 工業用水／上水受水量

年度	2013	2014	2015	2016	
工業用水受水量	189,036	188,080	164,146	164,224	(m^3)
上水受水量	646	619	661	623	(m^3)